

日本図書館情報学会会報 【速報版】

No. 131-F1

2008年8月

日本図書館情報学会事務局
〒305-8550 茨城県つくば市春日 1-2
筑波大学大学院図書館情報メディア研究科 内
E-mail: jslis-info@slis.tsukuba.ac.jp
学会ホームページ: <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jslis/>
郵便振替口座: 00160-5-45759 (口座名義 = 日本図書館情報学会)

2008年度日本図書館情報学会臨時総会のお知らせ

会員各位

日本図書館情報学会会長
根本 彰

2008年度日本図書館情報学会臨時総会を下記のとおり、第56回研究大会の第2日目に開催いたしますので、ご案内申し上げます。会員各位におかれましては、多数ご出席下さいますようお願いいたします。

なお、総会の議事終了後、同会場において、2007年度学会賞ならびに奨励賞の授与式を行ないません。

記

日時 2008年11月16日(日) 13:00~14:00(予定)
会場 帝塚山大学 学園キャンパス(奈良県奈良市)
議事 1 2008年度定例(通信)総会の議案投票結果について
2 その他

2008年度日本図書館情報学会定例(通信)総会の投票結果

有権者数	653(投票用紙発送数)
投票総数	249
有効投票数	236(2008年6月21日の消印までを有効投票とした)
有効投票率	36.1%(2007年度有効投票率:29.9%)
無効投票数	13

		賛	否	白票
第1号議案	2007年度事業報告	234	0	2
第2号議案	2007年度決算報告および会計監査報告	233	1	2
第3号議案	2008年度事業計画案	234	0	2
第4号議案	2008年度予算案	234	0	2

日本図書館情報学会規約第11条第1項（全正会員の5分の1）により総会は成立し、第11条2項（出席会員の過半数）により、全議案は承認され、成立した。

正会員から寄せられたご意見一覧

※ご意見に対する常任理事会からの回答は、次号会報（131号）に掲載する予定です。

■学会運営全般について

●細かなことですが、決算、予算をみて思ったこと
1. 銀行の普通預金しか口座がないようですが、収入と出金とスケジュール化して、定期預金口座も開設して、多少なりとも利息収入を増す 2. 郵便振替の加入者負担金が値上りしたので会費の振込は郵便局窓口ではなく、機械振込で行うよう指示して、負担金の減額を企る。

●通信総会ではなく、5月か6月に総会と研究大会、秋に研究会というプログラムへの変更が必要ではないでしょうか。また、会報の電子化を進め、電子版の送付者には印刷版の送付をしない等の省略化を行うべきでしょう。

●各委員会等の交通費を今後各委員の手弁当にして、学会に貢献していただけるようにすれば、支

出減となります。現在、いくつかの学会はこの方法で運営されています。

●監査報告で、財政の支出や事業運営の方針について、まったく述べられていないのは問題です。財政の事情について、きちんと評価し、「意見」を述べてもらいたいと思います。執行部が自ら語るだけでは不十分です。

●電子投票を続けた方がよいのではないのでしょうか。

■アンケート全体への自由意見

※事務局注：アンケート項目は「1. 支出を減らすために活動範囲を最低限のものに縮小する」、「2. 活動範囲を維持しつつ基本的な収入源である会費を値上げする」、「3. 学会誌への論文掲載料を徴収するなど受益者負担を求める」でした。以下の意見をご覧になる際の参考としてください。

●財政悪化の直接的原因とされている学会誌、会報の経費節減は必要ですが、そのために活動範囲を最低限に減少させるのは本末転倒だと思います。2, 3の選択肢は万策尽きたときの検討課題ではないのでしょうか。

●活動状況からすると会費値上げもやむを得ないかと思えます。学会誌を年報化するという方法もあるでしょうが、基本スタイルの変更がコスト削減にな

るか疑問です。学生会員の割合/数が少ないのは何故でしょうか。以上、とりとめもなく。

●会費及び学会誌投稿料は、いわゆる非正規雇用の研究者のことも考慮していただけたらと思います。

●3の論文掲載料は、正会員と学生とで差別化するなどして、少しでも投稿への障壁を軽くしてほし

いと思います。

●学会誌はともかく、学会報は電子メールによるPDF版での配信はできないのでしょうか？(テキスト版でも良いのでしょうか…。)

●研究発表会においても、発表グループ毎に少額で受益者負担を求めても良いのでは？

●アンケート案3について受益者負担を求める場合に、学生(院生)等への配慮が必要と思います。

●アンケートについて活動内容の見直しは定期的に行う必要があると思いますが縮小という方向を推進すべきではないと思います。なぜなら元来、過剰に事業を展開しているわけではなく、また本末転倒と思えます。

●活動範囲は現状より狭めない方が館界のためによいのではないかと思います。一方で、会費の値上げや投稿料の徴収は、若い研究者の負担増になり、活動の停滞につながるのではないかと心配です。どちらかと言えば、会費を値上げするのはやむを得ないのかも知れません。

●1.そのために学会活動が不活発になる。2.値上げは正会員のみ。院生など学生会費は値上げしない。3.学生会員は除外する。

●この学会だけに入っているのではなく、値上げには反対せざるを得ない。最初からの会員として、できれば終身続けたいが。

●学会の活動を全体で支えるための会費の値上げはやむを得ない措置と思いますが、学会誌への論文掲載料の徴収は投稿者の固定化を招く恐れもあり、反対です。高々600人強の会員数では、避けるべきではないでしょうか。2.やむをえない場合。

●学会運営について、会費の件については、十分検討していただきたく存じます。「値上げ」はよく出てくる案ですから。

●アンケート調査に記入したとおり、必要な事業は維持する方針で検討していただきたい。ただし、会報については印刷体での発行は止め、電子版(+PDF版も作るか?)のみとすることで良いのではないかと考える。わずかな節約ですが。

●1で賛成をえらんだら2は反対をえらばないと矛盾したりしないのでしょうか…

●会報の受け取り方として、電子版のみで郵送は不要、という選択肢があってもよいのではないのでしょうか。

●私の所属している他学会と比較して当学会は会費は割安であると考えます。また、論文誌の掲載料を(または別刷料)徴収している学会も少なくないと思います。学会活動を発展させつつ安定した(収支バランスのとりやすい)運営の可能になる方策を選択することが妥当だと考えます。

●学会誌の総ページ数(掲載論文数)の上限を定める。会報の刊行頻度を固定化する等の対応は考えられないでしょうか。

●論文掲載料には反対しますが、希望者に対する別刷(贈呈分以外)の販売など、双方にメリットとなる形ならば問題ないと考えます。

●1本の論文のページ数を減らし、執筆投稿を促す一方で従来の分量の場合は、掲載料負担を求めるといような方法を考えられるのではないかと。

●(3.受益者負担について)ここではこのコトバが適切か否か、一考を要す。

●(2.最低限のもの、3.会費を値上げについて)どの程度かによると思う。

●不要なイベントや委員会の見直し等

●「新たに収入が得られる事業」は、あてにしない方がいいと思います。ある時期、収入が得られても、恒常的に収入が得られるとは限りません。また、事業には、人手と資金が必要です。つまり、事業には、

損失が生ずるリスクがあります。学会は、会費と受益者負担のみによって、地道に運営すべきです。

■その他

●前委員長の小田先生の編集方針には大賛成です。今後も引き継がれることを望みます。「Chomsky.N.氏の論文がIREに載った」ということを言うと大げさなたとえになりますが、本学会誌も後世でも参考されるようになって欲しいです。

●電子ジャーナルの値上げは深刻です。多国籍企業に有利に世界は動いています。新しい科学コミュニケーションの改革も至難です。著者の分身である論文アクセスの自由化を世界の大手出版社に希望します。あわせて、著作者人格権の意義を再考していきたいものです。

●アンケート欄について1.～3.の項目を併用するかたちで運営すればという意図からすべての項目について「賛成」とさせていただきました。

●質的向上を！会費納入の振替用紙は、3月に送付されたし。

●具体的活動はしていませんが重要な研究領域と認識しています。今後独自の研究をしていきたいと考えているので、引続きよろしくお願ひ致します。

●事務局への激励・報告事項など(23件)

「今後の学会運営についてのアンケート調査」集計結果

表 1. 「今後の学会運営についてのアンケート調査」集計結果

	1. 活動範囲最低限		2. 会費値上げ		3. 受益者負担	
賛成	72	28.9%	113	45.4%	106	42.6%
反対	103	41.4%	72	28.9%	71	28.5%
どちらでもない	64	25.7%	57	22.9%	64	25.7%
白票	10	4.0%	7	2.8%	8	3.2%
合計	249	100%	249	100%	249	100%

※この集計結果には、定例（通信）総会における無効票も含まれています。

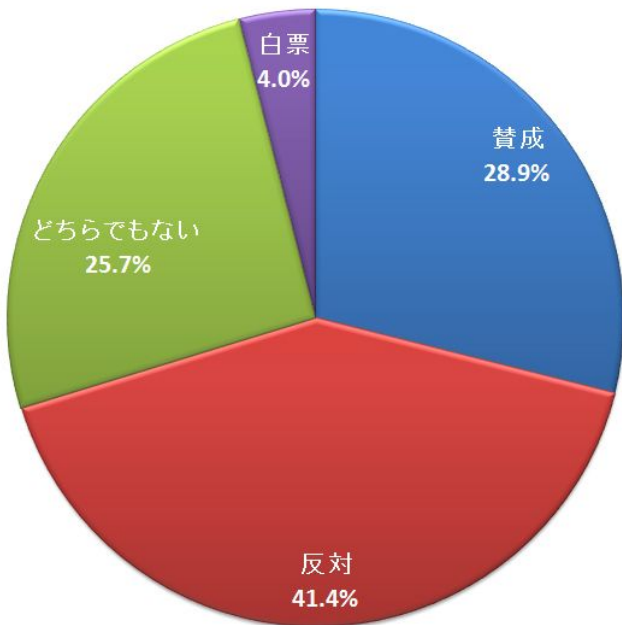


図 1. 「活動範囲最低限」に関する賛否の分布

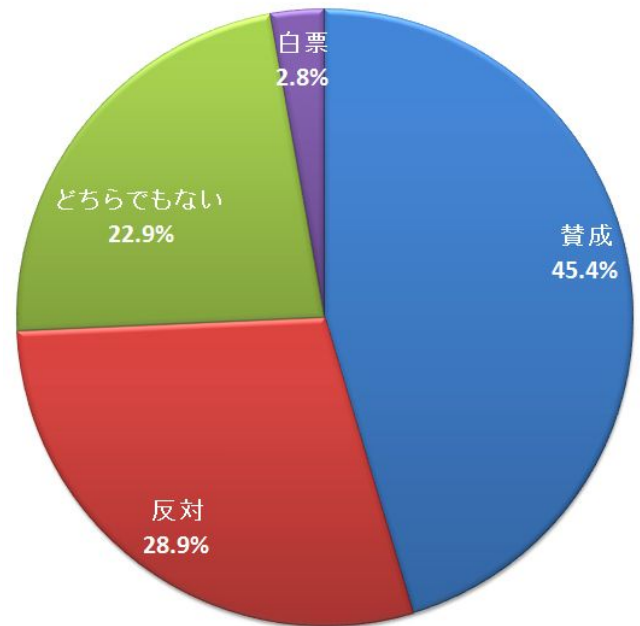


図 2. 「会費値上げ」に関する賛否の分布

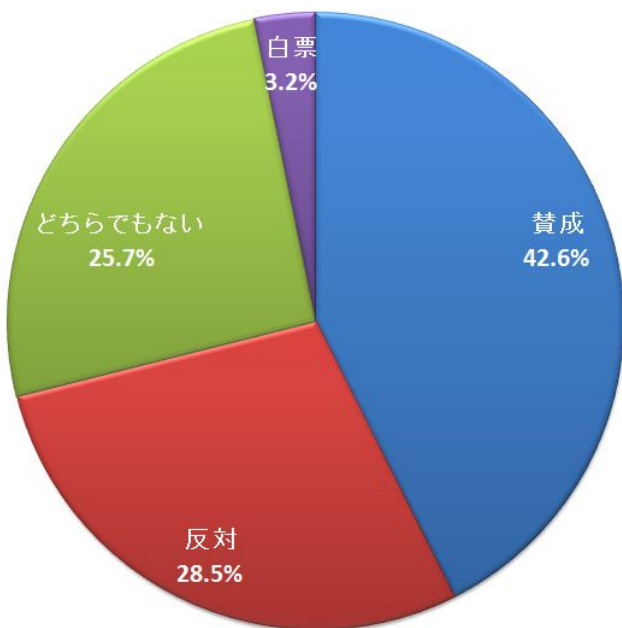


図 3. 「受益者負担」に関する賛否の分布

「1. 支出を減らすために活動範囲を最低限のものに縮小する」は、「反対」が 103 (41.4%) と最も多く、「2. 活動範囲を維持しつつ基本的な収入源である会費を値上げする」は、「賛成」が 113 (45.4%) と最も多く、「3. 学会誌への論文掲載料を徴収するなど受益者負担を求める」は、「賛成」が 106 (42.6%) と最も多かった。

したがって、今後の運営方針のうち、正会員に最も選好されたものは「会費値上げ」であり、最も反対が多かったのは「活動範囲を最低限にする」ことであった。

その一方で、いずれの質問項目においても、「どちらでもない」や「白票」が四分の一程度あり、態度を保留する正会員も少なくなかった。

常任理事会では、以上の結果を真摯に受け止め、学会財政を再建するための具体策を検討・実施していく予定です。

第 56 回日本図書館情報学会研究大会のご案内

第 56 回日本図書館情報学会研究大会を下記の通り開催いたします。

会場に予定している帝塚山大学・学園前キャンパスは、京都／大阪／奈良から交通至便の近鉄「学園前駅」の目の前。充実した研究タイムを過ごした後は、普段と異なった遊びに時間を組み合わせていただき、新たな気持ちで日常に戻っていただきたいと思います。

11 月の奈良は「紅葉狩り」など観光シーズンの真っ最中。宿泊予約は「超むつかしい」。お早めにご手配ください。

*開催要領

日程：2008 年 11 月 15 日（土）、16 日（日）

会場：帝塚山大学・学園前キャンパス（帝塚山大学 HP <http://www.tezukayama-u.ac.jp/>）のアクセスマップをご覧ください。

事務局：〒631-8585 奈良県奈良市学園南 3-1-3

帝塚山大学・心理福祉学部・地域福祉学科 柴田研究室内

第 56 回日本図書館情報学会研究大会事務局

TEL：0742-41-4863（直通）、Email：jslis2008@tezukayama-u.ac.jp

参加費：正会員 4,000 円、学生会員 1,000 円、非会員 6,000 円

懇親会費：4,000 円（予定）

弁当代：1,000 円（大会 2 日目の昼食；希望者のみ－大会申し込み時にお申し込みください）

*プログラム（予定）

11 月 15 日（土）

12:00-13:00 受付

13:00-13:15 開会式

13:30-17:00 研究発表

17:30-19:00 懇親会

11 月 16 日（日）

9:00-9:30 受付

9:30-12:00 研究発表

12:00-13:00 昼食（理事会等）

13:00-14:00 臨時総会

14:00-16:50 シンポジウム

16:50-17:00 閉会式

*その他

- ・大会 2 日目の午後には「臨時総会」を開催いたしますので、ぜひご参加ください。
- ・大会 2 日目のシンポジウムは「情報リテラシー教育に対する図書館の可能性（仮）」というタイトルで行われます。このシンポジウムは一般公開といたしますので研究大会参加者以外の方でも無料で参加することができます。

2009 年アジア太平洋図書館・情報教育国際会議（A-LIEP 2009）のご案内

日本図書館情報学会は、筑波大学大学院図書館情報メディア研究科、筑波大学知的コミュニティ基盤センターと共催で、社会の情報化とグローバル化に対応できる情報専門職の養成と新たな情報環境を踏まえた図書館・情報教育プログラムの構築に向けたアジア地域の協調を目指して、各国の研究者・教育者・実践者と課題を共有し、解決策をともに探求するため、2009 年アジア太平洋図書館・情報教

育国際会議(A-LIEP 2009)を以下の要領で開催いたします。

■メインテーマ：図書館・情報教育の国際化

■日時：2009年3月6日(金)～8日(日)

■会場：筑波大学 春日キャンパス (茨城県つくば市春日 1-2)

■主催：日本図書館情報学会；筑波大学図書館情報メディア研究科；筑波大学知的コミュニティ基盤センター

■協賛：情報知識学会；三田図書館・情報学会；情報メディア学会

■後援：国立国会図書館；国立情報学研究所；日本図書館協会

■プログラム概要：

・基調講演(日本語同時通訳付)：長尾真氏(国立国会図書館長)，ロナルド・ラーソン氏(ピッツバーグ大学 情報科学研究科長)

・投稿論文(英語)発表

・シンポジウム(日本語同時通訳付)：「図書館情報専門職教育の国際化と将来展望」

※プログラムの詳細については、<http://a-liep.kc.tsukuba.ac.jp/program.html> をご覧ください。

■参加費：一般：30,000円；主催・協賛学会会員：25,000円；学生：20,000円

※会費には資料代，懇親会参加費，7日・8日の昼食代を含みます

■投稿受付：以下のテーマによる発表(英文)を募集します(締切：2008年9月30日)

※投稿期限が延長されましたのでご注意ください。

◆図書館・情報教育

- ・新たな情報環境を指向する図書館情報教育機関の連携
- ・図書館情報分野の卒業生による情報に関する協力関係の構築
- ・アジア太平洋地域の状況を踏まえた図書館情報教育への挑戦
- ・リーダーシップとマネジメントの役割を担う図書館情報分野の人材育成
- ・アジア地域における図書館情報領域の教育プログラムの質保証と認証
- ・図書館情報教育におけるe-ラーニングを支援する資源共有と教材の公開
- ・研究成果を踏まえた教育

◆図書館情報領域の研究

- ・図書館情報領域における複合領域アプローチによる研究
- ・情報技術と知識マネジメント
- ・地域の状況を踏まえた図書館情報領域の研究
- ・エビデンスに基づく図書館情報領域の研究
- ・実践に基づく図書館情報領域の研究
- ・アジア太平洋地域の図書館情報現場における進行中および完了した研究

◆図書館情報領域の実践

- ・図書館情報領域における研究と実践の統合
- ・図書館情報領域の研究に対する実践者の観点
- ・図書館情報専門職の継続教育がサービスの品質にもたらすインパクト
- ・教員・訓練者としての図書館情報専門職
- ・生涯学習における利用者教育と情報リテラシー
- ・デジタルコミュニケーションに秀でた図書館情報専門職の養成

※論文投稿方法の詳細については、http://a-liep.kc.tsukuba.ac.jp/call_for_papers.html，および、http://a-liep.kc.tsukuba.ac.jp/submission_guidelines.html をご覧ください。

■本会議の詳細については、<http://a-liep.kc.tsukuba.ac.jp/> をご覧ください。

会報の電子配信に関するお知らせとお願い

当学会では、会員に対して、メール版会報の配信を行うとともに、ウェブサイトにも会報をアップデートしてきました (http://www.soc.nii.ac.jp/jslis/publications_5.html)。但し、これは、将来の会報電子化に向けての経過的措置として暫定的に行われてきたものであり、「印刷版」と「メール版」とでは、個人情報保護等に配慮して、一部内容が異なっていました。

会報の送付方法については、原則として、入会の際に、電子メールアドレスを登録した会員全員にメール版会報を送付するとともに、メール版会報不要の場合は、その旨、事務局に連絡をしていただくという方針で運用しています。また、入会申込書に、「メール版のみを希望」、「印刷版とメール版の両方を希望」のどちらかを選択していただけてきました。

また、今年度からは、メール版会報について、テキストファイルだけでなく、冊子版と同じ版面で見覧・印刷できるよう PDF ファイルを配信するとともに、ウェブサイトにも、従来の HTML ファイルではなく、PDF ファイルをアップデートすることとしました。

現在、正会員および学生会員の会報の受け取り方法の分布は下記、図4および表2の通りです。

図4. 会報の受け取り方法の分布について

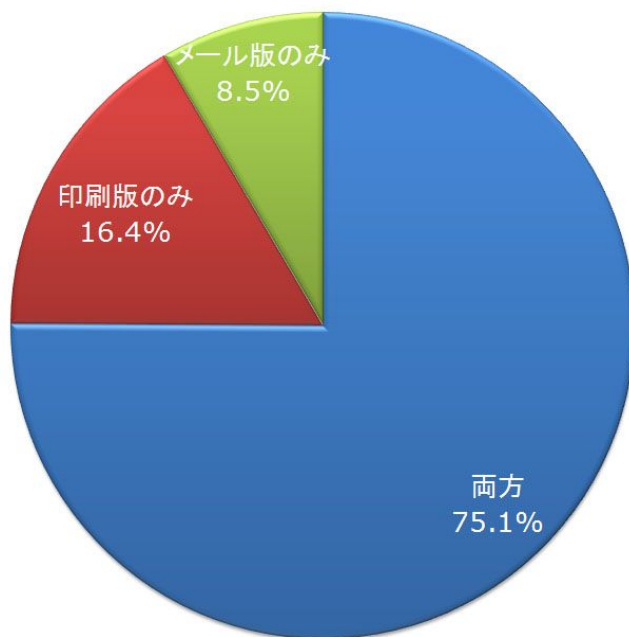


表2. 会報の受け取り方法の分布について

	人数	比率
両方	558	75.1%
印刷版のみ	122	16.4%
メール版のみ	63	8.5%
合計	743	100%

図表からも明らかなように、現在、印刷版会報とメール版会報の双方を受信している会員が、全体の4分の3以上を占めています。一方で、メール版のみを受信する会員は全体の1割にも達していません。

また、印刷版会報のみを受け取っている会員は122名(16.5%)と、決して少なくありません。したがって、現時点で、会報を電子配信のみとすることは、時期尚早であると考えられます。

さて、2008年度定例(通信)総会においても承認されました通り、学会活動の電子化は、情報伝達の効率化、ならびに、学会財政再建策の一環として、積極的に推進することが求められていると認識いたします。そこで、今後、「印刷版会報」だけでなく、「メール版会報[PDF]」を学会の正式な会報として位置付け、「印刷版会報」と「メール版会報[PDF]」の内容を完全に同一のものとするとともに、会報の電子配信率の向上に努めたいと思います。

つきましては、会員各位には、以下の二点についてお願い申し上げます。

- (1) 現在、印刷版会報とメール版会報の両方を受け取っている方は、できるだけ、メール版会報のみを受信するようお願いいたします(学会事務局まで、電子メールにてご連絡ください)。
- (2) 現在、印刷版会報のみを受け取っている方は、できるだけ、メール版会報も併せて受信するようお願いいたします(学会事務局まで、電子メールにてご連絡ください)。

会員各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

なお、会報の種別による相違点を、下記の表3にまとめましたのでご覧ください。

表3. 会報の種別について (次号 No. 131 号以降)

会報の種別	内容と構成	備考
印刷版 [メール便]	内容・構成ともに、メール版 [PDF]と同じ	今後も継続して発行
メール版 [テキスト]	会員異動情報、および、図表 等を割愛 独自フォーマット	PDF 版の配信に伴い、次号会報 (No. 131) 以降廃止予定
メール版 [PDF]	内容・構成ともに、冊子版と 同じ	「ファイルの閲覧・印刷」が可能 「ファイル内容のコピー」および「ファイルからの情報の自動抽出」は不可能 (ウェブ版も同様)
ウェブ版 [PDF]	内容・構成ともに、メール版 [PDF]) とほぼ同じ 会員異動情報のみ割愛	メール版と同時にアップデート 会報の記載内容に誤りがあつた際、随時訂正を加えることが可能

会報の受け取り方法の変更については、「会員名」、「所属」、「メールアドレス」等を銘記の上、学会事務局 (jslis-info@slis.tsukuba.ac.jp) まで、電子メールにてご連絡ください。

会報の受け取り方法の変更のみ希望の場合は、「会員情報変更申請書」にご記入いただく必要はありません。希望する変更内容についてのみ記載してください。

2008年度研究助成の決定

2008 年度の研究助成 (上限 10 万円) について 4 件の応募があり、研究委員会にて審議いたしました。昨年と同様の 6 点の評価基準 ([1]研究目的の明確さ, [2]研究の独創性, [3]遂行可能性, [4]成果の公表可能性, [5]申請金額の妥当性, [6]研究組織の適切性) を用いて各委員が付与した評価点に基づき議論した結果、次の 1 件に 10 万円の助成を行うことに決定いたしました。

研究代表者：須賀千絵 (慶應義塾大学文学部 [非常勤])

研究題目：英国の地方自治体による「地域図書館事業」における諸アクターの相互関係

各委員会・事務局から

『日本図書館情報学会誌』投稿募集と投稿先の変更について

編集委員会の連絡先 (投稿先) が、2008 年 7 月 26 日から 2009 年 3 月 31 日まで、下記の通り、変更されました。なお、この期間中は、田村俊作常任理事が編集委員長を代行いたします。

〒108-8345

東京都港区三田 2-15-45

慶應義塾大学文学部 田村俊作研究室気付

日本図書館情報学会編集委員会

tamaram@slis.keio.ac.jp

投稿はいつでも受け付けております。会員の皆様、どうぞ、ふるってご投稿ください。投稿規程ならびに執筆要綱は、本学会のホームページもしくは第52巻2号(2006年6月号)を、ご確認ください。投稿原稿の審査手続ならびに関連文書は、第52巻3号(2006年9月号)を、ご参照ください。また、論文投稿にあたってのチェックリストを、第53巻1号(2007年3月号)および53巻2号(2007年6月号)に掲載しましたので、ご活用願います。

学会賞選考委員会からのお知らせ

学会賞選考委員に、田村俊作常任理事が就任しました。

2008年度までの会費納入のお願い

2008年度までの会費未納の方は、すみやかに会費を納入ください。

振込先：郵便振替口座：00160-5-45759 (口座名義＝日本図書館情報学会)

会員情報の変更について

住所、電話番号、所属先、メールアドレス、会員種別等の変更については、学会ウェブサイトの「会員情報変更申請書」(下記 URL)にご記入いただき、事務局までメールでお送りください。

会員情報変更申請書：http://wwwsoc.nii.ac.jp/jslis/membership_3.html

会員情報に関する問い合わせ先：jslis-info@slis.tsukuba.ac.jp

退会について

退会については特に書式はございませんので、メールもしくはFAX・郵送にてご連絡ください。2007年度末の退会届け出は、2008年5月31日が締め切りです。2007年度の会費はお支払いください。

メールマガジンについて

総務委員会では、メールマガジンを発行しています。本学会、ならびに、他団体等からのお知らせのうち、速報性が重視されるものや、会報でご案内できないものを主な内容とし、随時発行しています。掲載希望、ならびに、講読希望の方は、jslis-info@slis.tsukuba.ac.jp まで電子メールにて、ご連絡ください。

事務局受領資料リスト

・日本図書館協会図書館学教育部会編『日本の図書館情報学教育 2005』日本図書館協会、2008

※会員の皆様が図書館情報学関係の著作を刊行された際には、可能であれば事務局まで1部お送りいただければ幸いです。書評対象文献の選定、ならびに、学会賞選考の際の参考とさせていただいています。

関連行事のお知らせ

人文科学とコンピュータシンポジウム 2008 (じんもんこん:-)2008) のお知らせ

テーマ：サービス指向のデジタル技術へー人文科学のポテンシャルー

会 期：2008年12月20日(土)・21日(日)

会 場：筑波大学 筑波キャンパス 春日地区 (〒305-8550 つくば市春日 1-2)

主催：(社) 情報処理学会 人文科学とコンピュータ研究会

参加費：情報処理学会会員・研究会登録会員 6,000 円 (当日 8,000 円)

共催・後援団体会員 6,000 円 (当日 8,000 円)

一般 8,000 円 (当日 10,000 円)

学生 2,000 円 (当日 3,000 円)

基調講演：木下史青 (東京国立博物館 学芸企画部企画課デザイン室長)

連絡先：じんもんこん 2008 実行委員会

Email: chs-08@slis.tsukuba.ac.jp

住所：〒305-8550 つくば市春日 1-2 筑波大学大学院 図書館情報メディア研究科

FAX：029-859-1093

詳しくは「じんもんこん 2008」公式ページ (<http://www.slis.tsukuba.ac.jp/chs08/>) をご覧下さい。

Web とデータベースに関するフォーラム (WebDB Forum) 2008 のお知らせ

開催趣旨：

近年、人類が創出する情報量が爆発的に増大しており、大量かつ多様な情報から必要な情報を効率的に活用するための技術が重要になってきました。本フォーラムは、情報処理学会データベースシステム研究会、日本データベース学会、電子情報通信学会データ工学研究専門委員会の共催、また、文部科学省科学研究費補助金特定領域研究「情報爆発時代に向けた新しい IT 基盤技術の研究」の協賛により、情報爆発時代における DB と Web 技術をテーマに開催します。本フォーラムでは、情報爆発時代に向けた各種特別セッションや、この分野における産学連携に関連する各種企画、Web 情報システムやデータベース技術についての最新研究成果の一般発表セッション等を通じて、招待講演、研究発表、パネル討論などの形態で議論する場を設けます。また、多様なコミュニティの交流を深め、議論を行うことができるポスターセッションを開催します。

日程：2008 年 12 月 1 日 (月)・12 月 2 日 (火)

会場：学習院 創立百周年記念会館 (東京都豊島区目白 1-5-1)

主催：情報処理学会データベースシステム研究会、日本データベース学会、電子情報通信学会 データ工学研究専門委員会

協賛：文部科学省科学研究費補助金 特定領域研究「情報爆発時代に向けた新しい IT 基盤技術の研究」、電子情報通信学会 Web インテリジェンスとインタラクション研究会、ACM SIGMOD 日本支部、筑波大学 知的コミュニティ基盤研究センター、独立行政法人 物質・材料研究機構

照会先：実行委員長 森嶋厚行 (筑波大学大学院図書館情報メディア研究科)

E-mail: mori@slis.tsukuba.ac.jp

詳細については、「WebDB Forum 2008」公式ページ (<http://db-event.jpn.org/webdbf2008/>) をご覧下さい。

お し ら せ

◆筑波大学大学院図書館情報メディア研究科教員公募のお知らせ

現在、筑波大学大学院図書館情報メディア研究科情報メディアマネジメント分野において教員 (准教授又は助教) を公募しています。詳しくは下記 URL をご覧下さい。

http://jrecin.jst.go.jp/seek/SeekJorDetail?fn=1&id=D108071225&ln_jor=0

財団法人日本科学協会「平成21年度笹川科学研究助成」の募集

平成21年度笹川科学研究助成の募集が10月1日～15日まで行われます。詳しくは下記URLをご覧ください。
<http://www.jss.or.jp/sasagawa/apply/apply.html>